

AC・Netニュース

No. 155
2008年
2月27日

Human Network for Researchers toward Advanced Telecommunications

立春とは名のみ寒さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さてこの度の【AC・Net ニュース】では、1月25日に行われました第171回 AC・Net 講演のご報告と、次回第172回例会のご案内を致します。まず先の講演会は、『無線通信技術の流れや進歩』について考えさせられるものとなりました。

続く第172回 AC・Net 例会は、私共 AC・Net(情報通信技術研究交流会)と IEEE 関西支部様の主催、兵庫県先端情報通信技術推進会議様共催のご協力を経て、「音声生成とパターン認識」をテーマに下記の通り予定しております。年度末のお忙しい時期かと存じますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

☆第172回 AC・Net 例会講演会 (3月) 概要

📅 講演会スケジュール

日時：2008年3月26日(水) 15:00~17:00

会場：大阪新阪急ホテル 「花の間」

〒530-8310 大阪市北区芝田 1-1-35

Tel.06-6372-5101 (代表)

<http://hotel.newhankyu.co.jp>

<会場地図などホテルへのアクセスはこちら>

<http://www.hankyu-hotel.com/hotels/19osakashh/access.html>

講演 (1) 15:00~16:00

演目：『音声生成過程の可視化技術としてのMRI』

講師：株式会社 ATR-Promotions 脳活動イメージングセンタ事業部 部長

まさき しのぶ
正木 信夫 氏

講演 (2) 16:00~17:00

演目：『パターン認識の原点に立ち返って』

講師：同志社大学 工学部 情報システムデザイン学科 教授

かたぎり しげる
片桐 滋 氏

〒 懇親会：大阪新阪急ホテル「雪の間」17:00~18:30

<http://hotel.newhankyu.co.jp>

大阪新阪急ホテル

〒530-8310 大阪市北区芝田 1-1-35 Tel.06-6372-5101 (代表)

※参加お申込は別紙申込書をご利用下さい。

第172回 AC・Net 例会講演会 (3月26日)

主催 : AC・Net (情報通信技術研究交流会) ・ IEEE 関西支部

共催 : 兵庫県先端情報通信技術推進会議

協賛 : けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会

☆講演(1)

【講師】 まさき しのぶ
正木 信夫 氏

株式会社 ATR-Promotions 脳活動イメージングセンタ事業部 部長

【演 題】 「音声生成過程の可視化技術としての MRI」

【概 要】 音声生成過程を可視化するためには、X 線映画をはじめとするさまざまなハイテク機器が利用されて来た。その中で 1980 年代に臨床で利用可能になった磁気共鳴画像法(MRI)は、X 線のように被曝の危険がないこと、3 次元的な構造を把握できることなどメリットが多く、音声研究者にとっては魅力的な研究機材であった。しかし、撮像に時間がかかり、運動記録が難しいなど、可視化技術として広く用いられるためには、いくつかのハードルを乗り越える必要があった。この講演では、これらの問題を克服するための技術、それらを用いて初めて成功した音声生成過程の可視化とその応用について、デモを交えながら紹介する。

【略 歴】 1985 年 (昭和 60 年) 3 月 早稲田大学大学院 理工学研究科 電気工学専攻
博士課程修了 (工学博士取得)

1985 年 (昭和 60 年) 4 月 財団法人 東京都老人総合研究所リハビリテーション
医学部 助手

6 月 同 研究員

1993 年 (平成 5 年) 7 月 株式会社 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)
人間情報通信研究所 主任研究員

2000 年 (平成 12 年) 1 月 同 脳活動イメージングセンタ センタ長

2006 年 (平成 18 年) 4 月 株式会社 ATR-Promotions 脳活動イメージングセン
タ事業部 部長

2008 年 (平成 20 年) 現職



☆講演(2)

【講 師】 かたぎり しげる
片桐 滋 氏
 同志社大学 工学部 情報システムデザイン学科 教授

【演 題】 「パターン認識の原点に立ち返って」

【概 要】 音声や文字の認識に長い伝統を持つパターン認識技術は、今やテキスト分類やバイオ・インフォマティクスなどの新しい応用の時代を迎えている。パターン認識技術の基本は元々、応用課題に拠らない普遍的なものである。しかし、音声認識で音声パターンに特化した手法が動員されるように、認識技術は、その発展と反比例するように応用ごとに個別化され、超分野的かつ抜本的な技術の発展が停滞してしまった感がある。パターン認識技術の役割がいつそう大きくなった今、この古くて新しい技術を新しい時代に即して再生させる価値は大きい。本講演は、パターン認識のための識別学習法に軸足を置いた、この再生の可能性について紹介するものである。

【略 歴】 1982年(昭和57年) 東北大学大学院 工学研究科 博士課程修了
 1982年(昭和57年) 日本電信電話公社(現NTT株式会社)入社
 1986年(昭和61年) 株式会社 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)へ出向
 1999年(平成11年) NTT株式会社 に復帰
 NTTコミュニケーション科学基礎研究所において知能情報研究部長や所長を務める
 2006年(平成18年) NTT株式会社 退社
 同志社大学 工学部 情報システムデザイン学科勤務
 2008年(平成20年) 現職

この間一貫して音声認識やニューラルネットワーク、識別学習の研究に従事。IEEE Signal Processing Society Senior Award や日本音響学会佐藤論文賞などを受賞。IEEE Fellow 及び NTT R&D Fellow。



第 171 回 AC・Net (1/25) 講演会

～講演会アンケートから～

日程：2008年1月25日(金)

テーマ「無線通信技術の最新動向」

今年最初の AC・Net 例会、お忙しい中多数ご参加頂きまして本当にありがとうございました。アンケートからご意見を掲載いたします。

◆演題：「ブロードバンドモバイルの実現に向けて」

講師：総務省 総合通信局 移動通信課長

わたなべ かつや
渡辺 克也 氏



- 流れを感じ取ることが出来、とても良かった。
- 無線通信の新たな使い方について参考になった。
- 現在までの話に加えて、将来の話があればもっと良かった。
- 初めて参加しましたが、おもしろかったです。

◆演題：「4G に向けた 3G 技術進化の動向とドコモの取り組み」

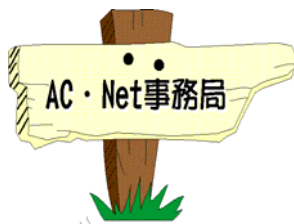
講師：株式会社 NTTドコモ 無線アクセス開発部長

おのえ せいぞう
尾上 誠蔵 氏



- 基本的な部分が勉強になった。
- 実測ビデオを交えた説明が非常に判りやすかった。
- 3G・LTE・4G との関連性について整理が出来て良かった。
- 無線技術の進歩に感銘を受け、もっと学ばなくてはと思った。
- グローバル規模の標準化は、是非主導権を握って進めていって欲しい。

【事務局からのお知らせ】



◎ 講演会の御案内は、メール配信及び KARC の Web サイト (www-karc.nict.go.jp/ACnet)にて行っております。

◎ 会員名簿情報に変更がある場合は、事務局までお知らせください。

〒651-2492 神戸市西区岩岡町岩岡 588-2

独立行政法人 情報通信研究機構 未来 ICT 研究センター内

TEL/FAX 078-969-2132/2119

E-mail acnet@po.nict.go.jp